

令和4年 ダイズ莢及び子実被害調査結果

1 県全体の発生状況

今年度の病害虫による莢への被害は平年より少なく、子実への被害は平年並でした（図1、2）。

莢ではマメシクイガ、フタスジヒメハムシによる被害が、子実では吸汁性カメムシ類、マメシクイガによる被害が目立ちました。

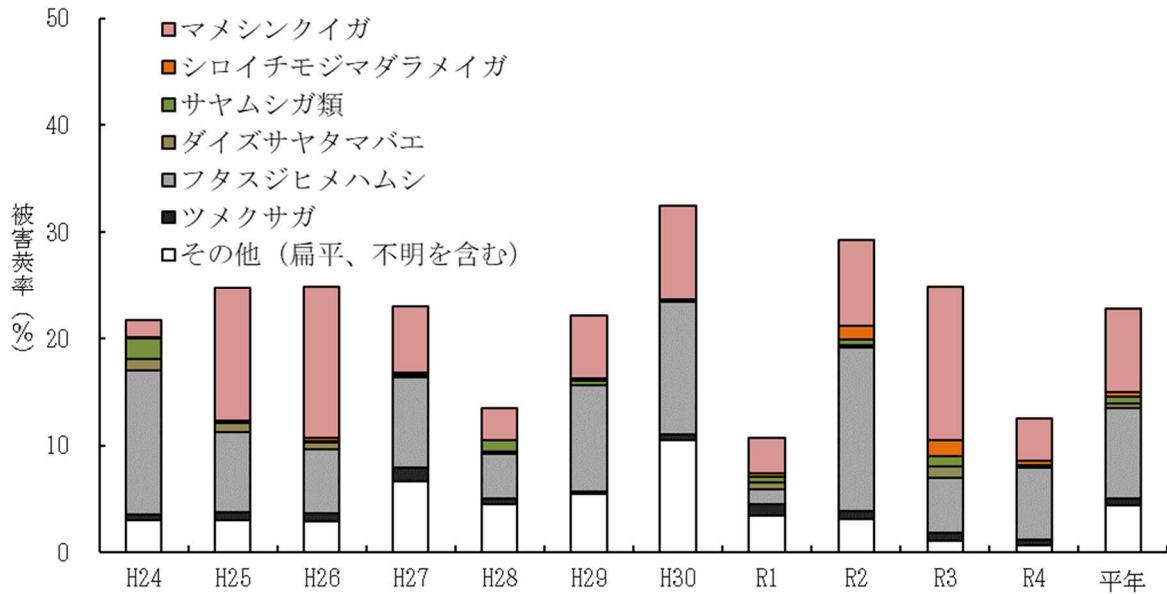


図1 原因別被害率の年次推移

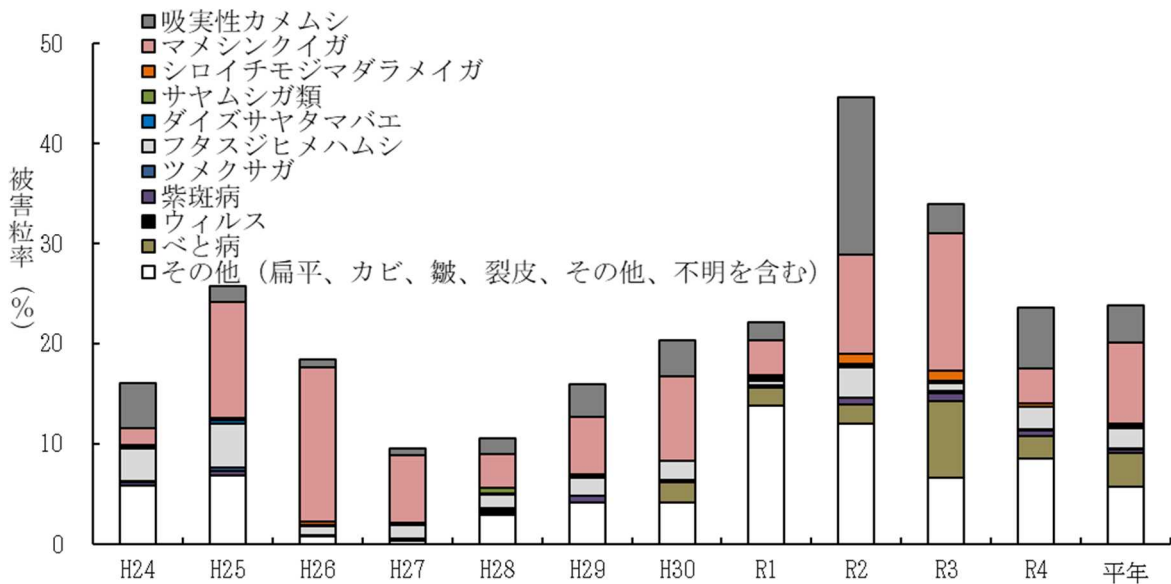


図2 原因別被害率の年次推移

注) 9地点、36ほ場で1ほ場当たり約200莢採取

注) 調査莢数7,424、調査粒数16,131

2 吸実性カメムシ類

被害粒率は、全域で平年よりやや高いから高くなりました（図3）。

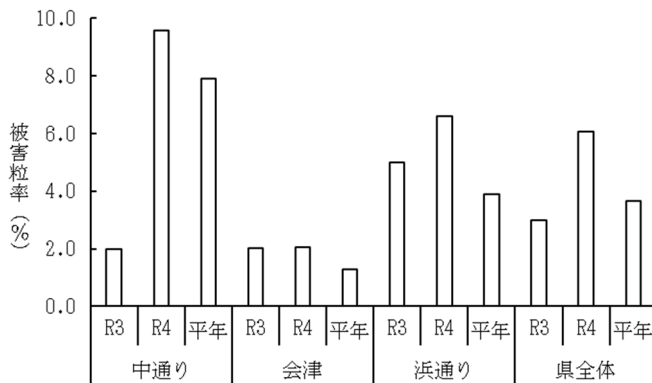


図3 吸実性カメムシ類による被害の発生状況

3 マメシクイガ

被害莢率、被害粒率ともに中通りと会津で平年より低く、浜通りでやや高くなりました（図4）。
昨年度より被害が減少しましたが、連作初年目のほ場でも前年度作付けしたほ場の付近では被害が多くなりました。

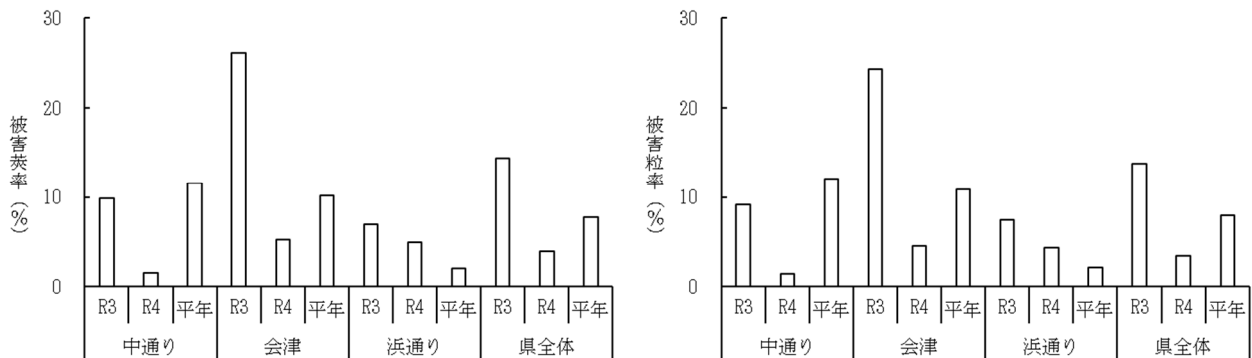


図4 マメシクイガによる被害の発生状況

4 シロイチモジマダラメイガ

被害粒率、被害莢率ともに中通りで平年並、会津で低く、浜通りでやや高くなりました（図5）。

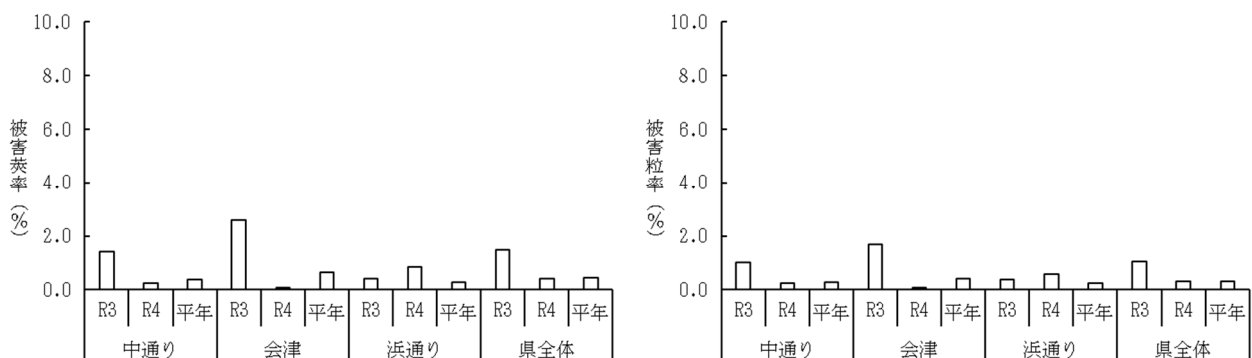


図5 シロイチモジマダラメイガによる被害の発生状況

5 サヤムシガ類

中通りと浜通りでわずかに莢への被害がみられましたが、子実への被害は確認されませんでした（図6）。

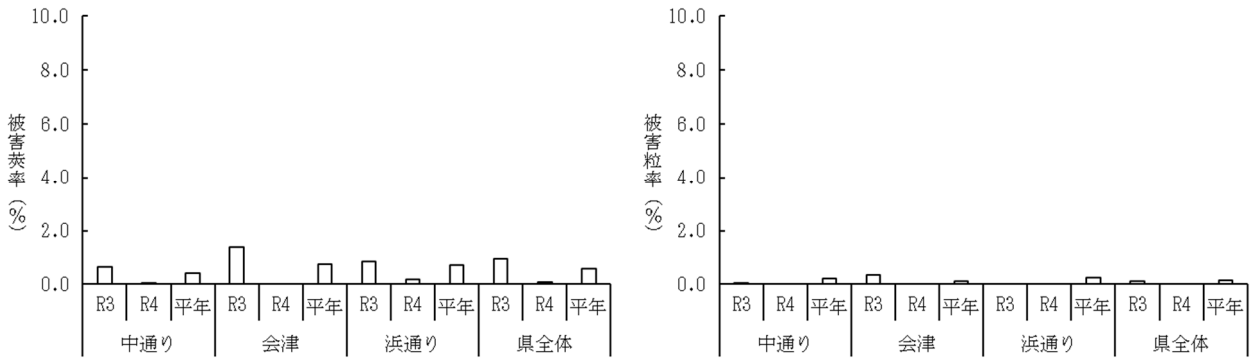


図6 サヤムシガ類による被害の発生状況

6 ダイズサヤマバエ

被害率率は全域で平年より低く、子実への被害はみられませんでした（図7）。

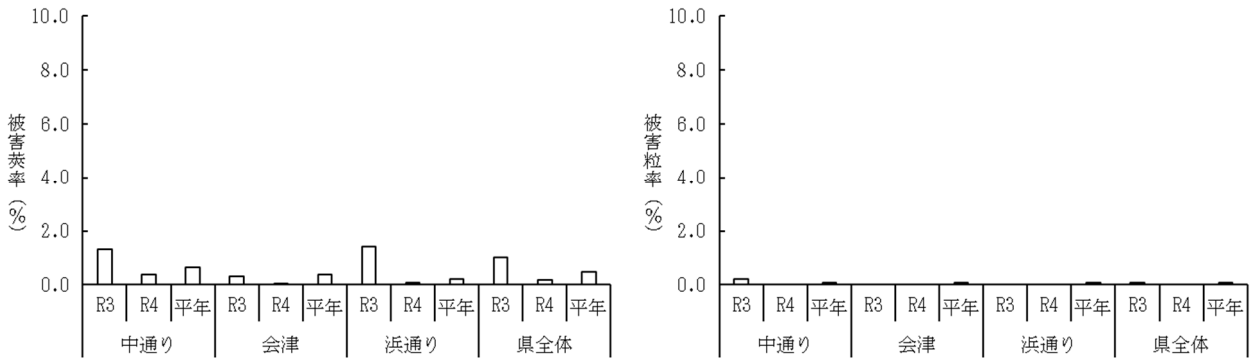


図7 ダイズサヤマバエによる被害の発生状況

7 フタスジヒメハムシ

被害率率、被害率率ともに中通り、浜通りで平年よりやや低いから低く、会津で平年より高くなりました（図8）。

近年、会津での発生が多い傾向にあります。発生が多いと収量・品質に影響を及ぼすので、子実肥大期の防除を行いましょう。

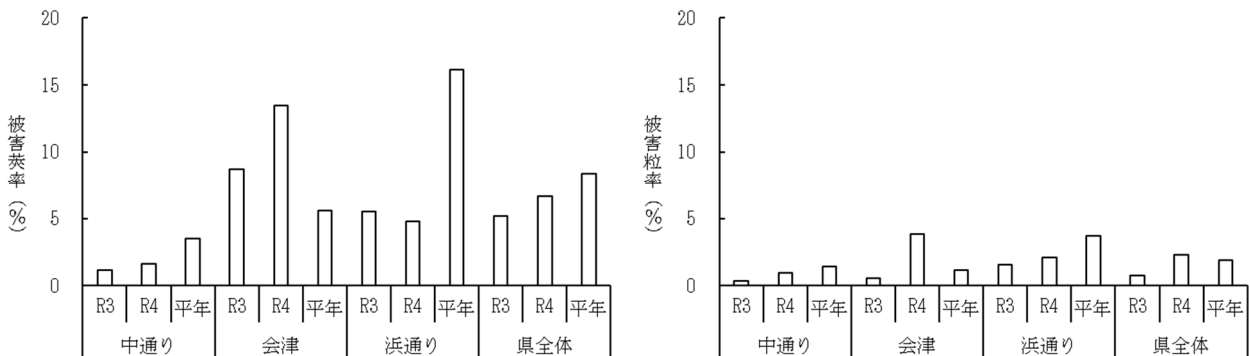


図8 フタスジヒメハムシによる被害の発生状況

8 ツメクサガ

被害莢率、被害粒率ともに全域で平年並からやや低くなりました（図9）。

なお、生育期に葉の食害が目立つほ場が一部でみられたため、発生が多い場合はマメシクイガとの同時防除を行ってください。

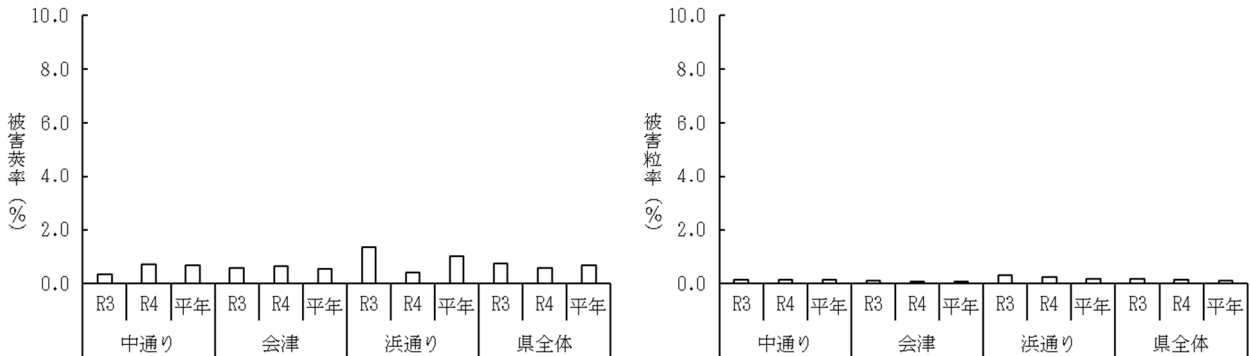


図9 ツメクサガによる被害の発生状況

9 紫斑病

被害粒率は中通りで平年より高く、会津、浜通りで平年並でした（図10）。

収穫の遅れや収穫後の放置で被害が拡大するため、適期収穫と速やかな乾燥・調製を心がけてください。

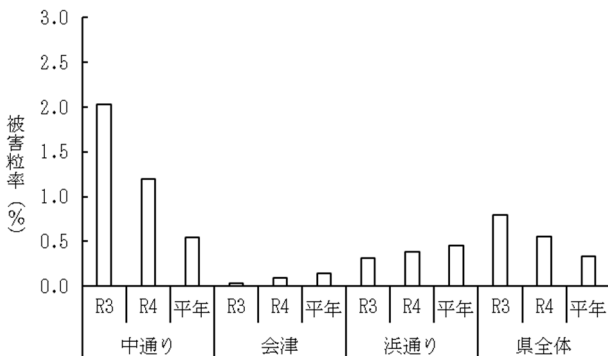


図10 紫斑病による被害の発生状況

10 ベと病

被害粒率は中通りで平年並、会津でやや高く、浜通りで低くなりました（図11）。

生育期の降雨で発生が助長されるため、適期防除やほ場の排水対策を心がけてください。

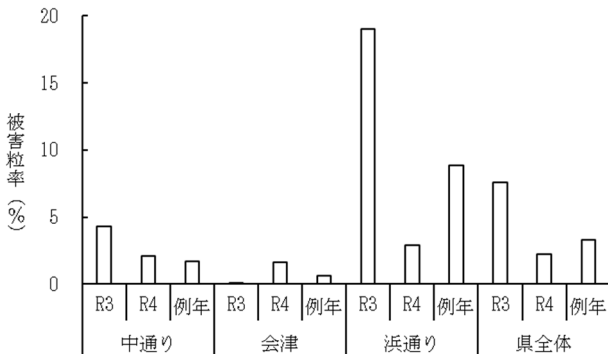


図11 ベと病による被害の発生状況

注) 本病の子実被害調査は平成30年より実施